

## 第1～3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

天理市立福住中学校

教頭 小竹 仙哉

### 1. 単元名 福住学 ―福住のもったいないを活用しよう―

#### 2. 単元の目標

- ・山あいの自然環境についてや、山あいの生活と自然との関わりや環境保全について調べて理解することができる。 (知識・技能)
- ・福住地域に目を向け、農業と自然環境の現状から課題を見だし、自然環境を保全するための方策を考えたり、考えたことについてグループで話し合い、協力して実行につなげようとする。 (思考・判断・表現)
- ・本来の山あいの福住としてのあるべき姿にしようとする目的意識を持ち、意欲的に仲間と協力したり、地域に協力を求める発信等をしたり協働することができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

#### 3. 単元について

##### (1) 教材観

本単元では、山あいの自然環境やその地域の生活の持つ素晴らしさを認識させることから始める。そして、今現在中学校生活を送っている福住地区を農業の観点から見つめ直すことで、良い点も問題点も明確に認識できるようになる。福住地区では毎年耕作放棄地が増えている。この耕作放棄地の活用を教材として、福住地区のこれからのあり方について考えようと思う。

そして、小学生の時の学年菜園での農作物の栽培経験からスタートし、今自分たちの力で取り組めることを導き出す。また、自分たちが地域に発信することで地域の協力を得ることでこれからの活動に具体性をもたせることも期待できる。

現在の福住が抱えている課題と向き合いながら、自分の考えを持ち、周りに仲間の意見を交換することで、共感したり新たな気付きが生まれる話し合い活動が生まれる。その活動が深く豊かな物になるために必要となる表現方法を考えることで、コミュニケーションのスキル向上を図ることができる。また、様々な意見にふれ共感することから寛容性も生まれ、人とつながる心地よさを実感できる。

また、自分たちで企画した栽培活動で、収穫作業を通して達成感を味わい自然の恵みの素晴らしさを実感したり、逆に自然に翻弄されてその強大さを思い知らされることもある。最終的に収穫物を福住地域のイベントの『市』での販売を目指すと共に、様々な自然との関わりを通して、人間性を磨くのに効果的な題材である。

##### (2) 児童観

本校の生徒は、小学生の時から学年菜園で様々な農作物を栽培した経験を持っている。だから、栽培活動で、手間をかける必要があることを知っている。その手間が、収穫という結果に結

びつくことも知っている。ただ、周囲の陰からの協力があったのことも事実である。

そこで、その経験を活かしながら、栽培の規模を大きくした活動を経験させることで、苦労や喜び等様々な思いを実感することで、福住の農業を他人事ではなく、自分事として改めて考えさせたい。

また今年、旧福住中学校跡のプールの活用方法についての取組で、人の心に伝わるプレゼン方法や制作の経験を活かして、更なるスキルアップにつなげたい。

### (3) 指導観

現在の福住が抱えている農業関係の課題を見つけ出し、その対処方法を考える話し合い活動の中で、自分の思いが十分に伝わるためのコミュニケーションのスキルを身に付けるとともに、自分と異なる意見も真摯に享受できる寛容性も身に付けさせたい。

また、農作物の栽培・収穫作業から、苦労の先にある喜びこそが、プライスレスであり何物にも代えがたい大切なことであり、この活動の一步が、福住の農業環境を変えていくことにつながると実感させたい。

### (4) ESDとの関連

#### ・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

A 多様性…話し合い活動の中で、様々な視点があり、考え方があるからいろいろな意見があつて当たり前である。

C 有限性…本来のあるべき姿ではない耕作地が福住のあちらこちらにある。  
（「もったいない」の文化がある。）

F 責任性…農作物栽培活動における協力体制。

#### ・本学習で育てたいESDの資質・能力

システムシンキング…山あいの福住の自然環境のすばらしさや福住の農業の課題を多面的・総合的に考える力

未来像を予測して計画を立てる力…山あいの福住のあるべき風景を想像して、その実現に向けた活動の計画を立てる力

つながりを尊重する態度…学校内だけではなく地域の人にも訴えかけて協力を募る

他者と協力する態度…深く豊かな話し合い活動をするための態度、地域の人に協力を依頼して協力し合う態度

#### ・本学習で変容を促すESDの価値観

文化を尊重する

日本の稲作文化の継承や、農作物の地産地消を心がける  
幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

農作物の栽培活動を通して作物成長を感じて喜んだり、収穫作業を通しての充実感や達成感を大切にする。

・達成が期待されるSDGs

- 2 持続可能な農業の促進
- 12 生産と消費
- 15 陸上資源

4. 単元の評価規準

| ア 知識・技能                              | イ 思考・判断・表現                     | ウ 主体的に学習に取り組む態度                  |
|--------------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|
| ① 山あいの自然環境・生活と自然の関わりや環境保全について調べている。  | ① 福住の農業や自然環境の課題を見つけている。        | ① 山あいの地域のあるべき姿にしよう仲間と協力して活動している。 |
| ② 山あいの自然環境・生活と自然の関わりや環境保全について理解している。 | ② 自然環境を保全する方策を考え出している。         | ② 地域の人に協力を求める発信等をして、協働している。      |
|                                      | ③ グループで話し合い、協力して実行につなげようとしている。 |                                  |

5. 単元の指導計画（全7時間）

| 次 | 主な学習活動  | 学習への支援（・）   | 評価（△）<br>備考（・）                                   |
|---|---|---|--|
| 1 | ○山あいの地域のことを、生活や自然を中心としてその特徴を調べる<br><br>○気付いた特徴等をグループで話し合い、発表する。 | ・各自 Chromebook で調べさせたり、特徴的な写真を提示し、参考にさせる。<br>・良い点を中心にまとめ、福住もあてはまることを気付かせる。<br>・次回までに、福住の農業について課題やもったいないと思う物を探しておくよう伝える。 | △ア①<br>（知・技）<br><br>△ア②<br>（知・技）<br>△イ③<br>（思判表） |
| 2 | ○福住の農業の課題や現状についてグループで話し合い、発表する。                                 | ・課題や現状の写真を数枚用意しておき、状況によって提示する。  | △イ①<br>（思判表）                                     |
| 3 | ○グループで自分たちが取り組める課題を選び、対策活動を考える。<br><br>○グループで考えた対策活動を発表する。      | ・各グループがいろいろな活動を考えるよう助言する。<br><br>・自分たちでの活動と地域の協力があると良い活動を分ける。   | △イ③<br>（思判表）<br>△イ②<br>（思判表）                     |
| 4 | ○地域の協力を依頼するグループはそのプレゼンの準備をする。                                   | ・協力を依頼する地域の人の人選を行う。   | △イ③<br>（思判表）                                     |
| 5 | ○自分たちでできる活動は具体的な活動の計画と準備をする。                                    | ・必要な道具類の準備の補助をする。   | △ウ①<br>（主体的）                                     |

|   |                 |  |                              |
|---|-----------------|--|------------------------------|
| 6 | ○地域の人に協力を依頼する。  | ・地域コーディネーターの方を招く。                        | △ウ②<br>(主体的)                 |
| 7 | ○地域の人も含めて作業を行う。 | ・地域コーディネーターの方から今後の作業についてのアドバイス等<br>をもらう。 | △ウ①<br>(主体的)<br>△ウ②<br>(主体的) |

※以後の栽培や収穫等の活動は適時実施し、収穫物は福住地域のイベントの『市』での販売を目指す。